

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ともしびの家-MOROE-		
○保護者評価実施期間	令和7年 1月 15日		～ 令和7年 2月 3日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	31名	(回答者数) 25名
○従業者評価実施期間	令和7年 1月 15日		～ 令和7年 2月 3日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数) 6名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 2月 21日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	安心感を持って通所	送迎時の具体的な共有を徹底している。 「共感」した支援をできるよう意識している。	子どものペースや特性、保護者さまのニーズに合わせたサポートを継続。
2	清潔さ・快適性	衛生面に関しては、こまめな清掃を行なっている。 バリアフリーに関しては、子どもの利用状況に応じて、 環境に課題がみられた場合は保留にせず、環境の工夫を行なっている。	清掃や整理整頓、バリアフリー等を徹底し、 環境の質を維持する。
3	活動プログラムの工夫	活動が固定化しないよう、職員間でアイデアを出し合い工夫している。	今後も偏らない活動を意識しながら、新規プログラムの導入も前向きに検討し、活動の充実をはかる。

	事業所の弱み(※)と思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	家族支援プログラムの強化	子どもの支援に注力するあまり、家族向けのサービスが不足がちになっている。送迎時の共有や、個別支援計画作成にあたってのモニタリングが主になっており、そのほかの機会の提供が検討できていない。	・家族向けの研修やペアレント・トレーニングの機会を増やし、家庭での支援をサポートできる環境を整えるよう努める。 ・保護者の参加を促す工夫を行い、負担なく参加できる方法を模索する。
2	職員研修の充実による支援スキルの向上と適切な支援の提供	実施義務のある研修に留まっている。日々の業務にプラスした研修機会の確保が中々できていない。	・義務のある研修機会の確保だけでなく、職員の専門性を高めるため、必要に御応じて外部講師を招いた研修等の企画を検討する。 ・具体的な事例を共有しながら学べる場を増やす。
3	子どもの通所意欲の向上	日頃から、子ども・保護者に「通所の充実」という観点について、十分なヒアリングできておらず、通所を楽しみにしていない子どもについて把握できていなかった。	子どもがより楽しみに通所できるよう、本人の意見を取り入れた活動プログラムを充実させたり、スタッフとのコミュニケーションを工夫する。